

a 学校教育目標	よく学び 心豊かで 元気な子	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 夢や志を持って未来を拓き、自己実現を目指す子どもの育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○確かな学力をつける学校 ○質の高い教職員を育てる学校 ○保護者・地域とともに歩み、信頼される学校
----------	----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	確かな学力の向上を図る。	◎基礎・基本の定着を図る。	・算数科を中心に言語活動を取り入れた単元構成の工夫と授業改善を行う。(小中連携・学力向上総合対策事業) ○繰り返し練習による学力の定着を図る。 ○帯タイムなどによる個別指導の徹底を図る。 ○辞書活用による語彙力を向上させる。 ○学習の本郷スタイルを徹底させる。	・期末テスト(国語・算数)において75点以上の児童の割合 70%以上 ・[基礎・基本]定着状況調査における学校平均通過率 80%以上 ・標準学力調査で全国平均を上回る。 ・国語辞書による語句調べにおいて、低学年300 中学生600 高学年800以上調べる。 70%以上	国語科 85% 算数科 71% 基礎基本 84.8%	国語科 84% 算数科 80% 基礎基本 84.8%	117.1% 106%	A	・期末テストについては、国語科84%算数科80%で目標を上回っている。 ・「基礎・基本」定着状況調査については、昨年度と比較して国語科も算数科も、8ポイント以上上回り、算数は県平均を15ポイント上回った。 ・標準学力調査については、5学年は、全国平均を上回った。この結果から、基礎・基本の力はついていくが、活用的な問題についてはまだ課題がある。 ・辞書活用については、前期は初めての辞書引き学習で、意欲的に取り組む児童が多く目標を達成することができたが、後期は、主体的な辞書引き活動になりにくく、目標を下回った。また、高学年になるほど辞書引き学習の時間確保が難しくなった。	・国語科は、文章の読解や聞き取りなどに課題があるので、読解の仕方を指導し、様々な読解問題を解かせる。また、帯タイムだけでなく家庭学習も活用して読解力をつける。 ・算数については、標準学力調査の結果をふまえて苦手な単元を中心に復習するとともに、個別指導を徹底する。 ・辞書引き学習については、あらかじめ語句を用意して調べる語句を示す。時間を保障するために、全校一斉で取組めるような時間帯を作る。また、年間目標を再検討し学年ごとに目標値を設定する。	5			・どの学年も昨年より落ち着いて静かに学習できているので、成長を感じることができた。それらが、テストの結果に出ている。
豊かな心の育成	自然・人などの関わりを通して豊かな人間性を培う。	○「挨拶」「時間いっぱい掃除」「靴そろえ」の定着を図る。	○価値や意義について学級指導をする。 ○挨拶・掃除・靴そろえのモデル化を図り徹底する。 ○定期的な点検と評価を行い習慣化させる。	・「挨拶」「時間いっぱい掃除」ができる児童の割合 90%以上 ・「靴揃え」ができる児童の割合 95%以上	挨拶・掃除 86.2%	挨拶・掃除 92.3%	100.3%	A	・大きな声で挨拶できる児童が増えているが、地域ではできていない児童がいる。 ・掃除の手順もわかり、取り掛かりもスムーズである。自分の担当場所をしっかりと掃除ができる児童が増えている。 ・掃除場所によっては時間があまり進んでしまう場合があるので、掃除場所の見直しが必要である。 ・靴揃えは、意識してできる児童が増えている。できない児童は固定化しているが、以前より靴揃えができるようになってきた。引き続き個別指導が必要である。	・誰にでも進んで挨拶ができるように、継続的に指導や評価を行う。 ・掃除場所と担当人数の見直しをする。 ・靴揃えが定着していない児童への個別指導と声かけを引き続き行う。	5			・掃除時間に学校へ来た時、子どもたちがみんな熱心にやっている姿を見て感心した。
健やかな体の育成	健やかな体づくりを推進する。	○「走力」「跳躍力」「柔軟性」の向上を図る。	○サーキットトレーニングの自己目標を設定し取り組む。 ○走力・跳躍力・柔軟性を向上させるための体育の準備運動に取り入れる。 ○走力・跳躍力・柔軟性を向上させるためのサーキットトレーニングを行う。	・サーキットトレーニングの自己目標を達成した児童の割合 85%以上 ・走力・跳躍力・柔軟性において体力テスト計測時より向上した児童の割合 80%以上	サーキット 72.4%	サーキット 82.1%	96.6%	B	・各学年でめあてカードを工夫したり、自己目標の見直しをさせたりしながら、サーキットトレーニングへの意欲を継続できるような取り組みを行ったので、10月よりは自己目標を達成した児童が増えた。 ・いろいろな運動に取り組ませるとともに、課題のある運動について意識的に取り組ませたので、体力テスト計測時より向上した児童が増えた。しかし、計測時より記録が落ちている児童もおり、冬場の運動の取り組みに課題が残る。	・児童の実態をとらえ、サーキットトレーニングの内容を検討する。また、めあてカードや体力分析シートなどを活用し、運動への意欲を高める。 ・指導のポイントを押さえ、効果的な運動に取り組ませる。 ・体育の授業、学級活動、休憩時間など、さまざまな場をとらえ、運動に親しませる。	5			・カードなどを使って、子どもたちが進んで運動ができるように工夫している。 ・子どもたちは、寒くても休憩時間によく外で遊んでいてよい。
信頼される学校	保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○情報を公開し、学校に対する理解度・信頼度を高める。	○ホームページの更新や学校だより、学級通信の発行を月1回以上行う。 ○年間3回の学校関係者評価を実施し、客観的な評価と改善を行う。 ○服務研修を月1回以上実施する。	・保護者・地域の学校に対する理解度 ・学校関係者評価者の肯定的評価 90%以上	95%	100%	111.1%	A	・ホームページの更新や学校だより、学級通信の発行を目標通り行うことができたが、学級通信の内容の充実を図る必要がある。 ・学校関係者評価委員会を3回実施し、評価をもとに取組の改善を図ることができた。 ・服務研修については、時期に応じて、事例をもとにした実践的な研修を行うことができた。	・学級通信については、子どもたちの成長やがんばりを伝えるとともに、学級の取組に対する協力を得るための内容を入れる。 ・学校関係者評価については、評価のための具体的な情報を提供し、より改善につなげるものにする。 ・服務研修の企画、運営については、人材育成や不祥事を自己の問題として捉えるため、より多くの教職員が企画・運営に参画できるようにする。	5			・授業参観の時、保健や英語・しのぎなどいろいろな授業をみることができ、今頃の授業のことが分かってよかった。 ・敬老会や「ふるさとづくり発表会」などの行事に出て、信頼を得る努力をしている。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100

【I:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。